



さんぼんぜ
三番瀬

再生
目標

生物多様性の回復／海と陸との連続性の回復
環境の持続性および回復力の確保／漁場の生産力の回復
人と自然とのふれあいの確保を目指す。

DATA
エリア：千葉県指定鳥獣保護区
所在地：千葉県浦安市、市川市、船橋市、習志野市
事業実施期間：H14～H28

事業完了後の自然再生の
取り組み状況

平成18年度に「三番瀬再生基本計画」を策定し、3次の事業計画に基づいて、29の事業が行われた。現在は、「干潟環境の形成」と「自然（湿地）再生」事業は終了したもの、多くの事業は継続されている。

(R4.3 現在)



ハマシギ



自然再生の手法

- ▶ 干潟の環境（干出域等）の形成
- ▶ 行徳湿地の保全と利用
- ▶ 豊かな漁場への改善の取り組み等

事業の効果

市川市塩浜地区に生態系に配慮した海と親しめる護岸を整備しているほか、覆砂による漁場改善やノリ新品種の普及や作出等を行っています。また、三番瀬自然環境調査等により多様な生物の生息を継続的に確認しています。



市川市塩浜2丁目護岸

三番瀬は、東京湾奥部、江戸川（放水路）河口に残された約1,800haの広大な海域で、昭和40年代から昭和50年代にかけて東京湾奥部一帯で行われた干潟域の埋立事業により、三方を埋立地に囲まれた現在の形状となりました。この三番瀬にはゴカイ類、アサリ等の二枚貝、ハゼ、カレイ等の魚類が数多く生息し、スズガモ、シギ・チドリ類等の集団飛来地となっています。

しかし、海岸部の埋立と地盤沈下によって干潟が減少し、生活・産業排水等の流入による富栄養化や青潮の進入等で、開発前と比べると環境が悪化しています。

このため千葉県は周辺市・地域住民・関係団体とともに、貴重な自然環境の再生保全と地域住民が親しめる海の再生を目指した取り組みを進めています。

ここに注目！ 漁業者による漁場改善の取り組み

「豊かな漁場への改善」に向けて、漁業者グループがアサリ等の稚貝の沈着促進、海底の耕耘等の干潟の機能保全活動に取り組んでいます。これらの活動に対し、県は水産庁の水産多面的機能発揮対策事業等を活用し、国、市とともに支援を行っています。



たんざわおおやま
丹沢大山

再生
目標

人も自然もいきいきとした丹沢大山の再生を目指す。

DATA
エリア：丹沢大山国定公園
所在地：神奈川県相模原市、山北町、松田町、秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町、清川村
事業実施期間：H16～

丹沢大山自然再生委員会

概要：それまでの調査結果をもとに、平成18年6月に自然再生の基本原則や目標、解決すべき課題と対策、実行体制をまとめた「丹沢大山自然再生基本構想」が策定され、「丹沢大山自然再生委員会」のもと、多様な主体の協働により始まった。現在は、神奈川県の策定した第3期の「丹沢大山自然再生計画」の実施中である。

(R4.3 現在)



ブナ林再生のための気象観測



自然再生の手法

- ▶ 希少動植物の回復
- ▶ 流域単位の健全な森林、溪流の保全
- ▶ 地域資源を活かした循環型社会づくり
- ▶ 県民に利用可能な情報システムの構築

事業の効果

事業で整備した植生保護柵により、林床植生の回復や希少植物の保護が進んでいます。

植生保護柵



丹沢大山国定公園は、日本百名山の丹沢山をはじめとした山々が連なり、ブナの原生林やツキノワグマ、ニホンジカなどの大型哺乳類がみられるなど、首都圏近郊にありながら豊かな自然を残しています。また、年間300万人以上が訪れるとともに、神奈川県の水源地としての役割も有しています。

しかし、大気汚染などの複合的要因によるブナの立ち枯れやシカの過剰な採食による林床植生の退行、人の踏圧による裸地化等が見られています。このため、自然環境のモニタリングやこれまで実施してきた保全対策の検証をはじめとして、生物・人間・環境相互間のつながりを解析し、さらなる自然環境の保全・再生等に向けた取り組みを進めています。また、本委員会では、県の「丹沢大山自然再生計画」の事業や企業が取り組む自然再生プロジェクトなどの評価と支援を行うほか、県民参加型の活動やイベントの共催・後援を行っています。

ここに注目！ 水源かん養機能などの効果検証

本地域では、奥山域、山地域、里山域、渓流域の4つに分類した景観ごとに再生目標を定めています。山地域では、地域特性に応じた持続可能な森林整備やシカの適正管理を進めるほか、取り組みによる水源かん養機能など公益的機能の効果検証も行っています。